

浅草 花やしき

浅草の「花やしき」に行きました。地下鉄銀座線の浅草駅からは、浅草寺の裏にあたる場所だと思います（東京の地理感が不確かなので、自信はありません）。浅草六区を歩いていたら、その続きに遊園地がありました。

花やしきは、日本最古の遊園地。嘉永6（1853）年に開園。牡丹と菊を中心とする植物園が出发点。茶人や俳諧師、大奥の女中たちの憩いの場だったそうです。時代が進むにつれ、動物の展示や、遊具、見



中嶋哲夫の「人事も歩けば」

世物なども始まって、大正、昭和の遊園地に。ただ、関東大震災時や、第二次大戦中の強制疎開によって閉園されたこともあります。現在の花やしきは昭和22（1947）年に再開園しています。面積は1,800坪ほど。乗り物券を利用するレトロな遊園地です。

冬場の平日。お客さまが少ないのでしょうか。入場券売場は閉鎖。入り口でチケットを売る形。「シニア1枚」をお願いしたら、「シニアの方は絶叫マシンには乗れませんが、いいですか？」というチェックがあります。内心「大きなお世話……」と思いつつ入園すると、遊具がびっちり配置されています。立体的な配置なので、乗り物がみえても乗り場がみえない。不思議空間です。ローラーコースター、スペースショット、ディスク・オー、リトルスターといった絶叫系マシン。メリーゴーランド、ちびっ子観覧車、ヘリコプターなどの子ども向け遊具。お化け屋敷に3Dシ



▲迷路に行く道が迷路

アター、幽霊の館、輪投げ、的当て、滝のある通路に大迷路、挙げ句の果てには笑運閣という神社？ 女子プロレスの興行もあるようです。弁当持ち込み可です。

笑ってしまったのは、大迷路に行くための道。一人しか通れない狭い道です。道の両側に間違い探しの絵が描かれています。その通路を通り抜けると喫煙コーナー。その隣は幼児用の電車。わけがわかりません。「ここは大阪新世界か！」と、突っ込みたくなります。

何でもあり、ごった煮の世界。レトロ感が漂う、しかしそれで統一されているわけでもない。そこに若いカップルがデートで来ていることが新鮮です。何でも笑顔に変えてしまうごった煮の世界。パンフレットの言葉を援用すれば「これも花やしき流」。意図してデザインし、演出した楽しさではなく、試行錯誤をしているうちにできあがった楽しさを発見できる場所でした。

（MBO 実践支援センター代表）

